

BRC Top

お知らせ

ご挨拶

事業の概要

技術研修

組織図

各室概要

公開情報

リソース検討委員会

個人情報保護

採用情報 

アクセス

リソース検索

利用方法

提供申込み

寄託申込み

提供手数料

支払方法

総合カタログ

利用者登録

メールニュース

関連リンク

お問い合わせ先

公開情報

生体応答情報技術開発サブチーム

土井 貴裕 サブチームリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

一部のマウス系のみであるが、今後、他チームとの共同研究も含めてコンディショナルKOの整備あるいはCell lineの樹立などにも積極的に取り組めばリソースの付加価値を高め、センターの目標に合致することになるだろう。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

自身のNF-κBがらみの研究をある程度大切にしている観点から炎症、がんのテーマにはいるのはやむを得ないと思われ、成果が挙がっていけばリソースの付加価値を高めるものと思われる。

2) 5年間で達成可能な目標か？

マウスの表現型解析以降のさらに突っ込んだ研究については、おそらく3年目以降になると思われるが、各疾患での連携を強めれば達成可能な目標であると思われる。その上で知りたい目標が明確かつ集約されてくるであろう。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

対象遺伝子、疾患を解析している研究者は多いので、関心のある研究者は多いと思われる。すでに海外からのリクエストもあるとのことであるが、海外との共同研究などによって自身の研究を大切にするとともに、国際性をさらに強化していただきたい。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

具体的な計画ではあるが、一部に個別の目標設定や実験計画の詳細

細を吟味していく必要が感じられ、チームリーダーとよく議論していけば解消するものと思われる。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

個別的研究ともとれるが、NF- κ Bがらみの研究は大きな広がりを見せていることから、利用者が増加も期待され、必須な計画と判断される。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

独自のKOマウスや多重変異のマウスを保有しており、NF- κ B変異関連マウスのライブラリーに関する研究開発チームという点で、独創性は高いと考えられる。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

現在の研究資源の範囲内という前提では実験計画を絞ることが必要であろう。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

経験は十分と判断される。今後にぜひ活かされたい。

3. その他

効率よく成果を挙げるために、他チーム、他研究機関との連携を推進されたい。

